

心に残る文化財子ども塾 出雲市立みなみ小学校

1. 活動の概要

7月14日（金）、出雲市立みなみ小学校で、6年生13人を対象として『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。

はじめに、古代出雲歴史博物館職員が、学校周辺の遺跡を紹介しました。次に出雲市内の遺跡から出土した奈良時代の土器に触れてもらいました。土器に触れるのは初めてという児童が多く、手触りを感じてもらい、用途について思いをはせました。

次に、大仏パネルを組み立てました。子どもたちは、協力してパネルを並べ、実物大の大仏の大きさを実感しました。そのあと、大仏パネルの上で記念撮影をしました。暑い日でしたが、クラス全員が団結して大仏を完成させて、その大きさを実感した一日となりました。

2. 活動の様子



3. 活動を終えて

1) 児童の皆さんから

・大仏パネルはむずかしくて、パーツをみつけるのが大変でした。でもほんものを作るときはもっと大変だったんだろうなと楽しく学びました。

・みんなと分担して作れました。けっこう大変だったけど、分担して完成しました。(複数)

・本当に昔の人が使っていた土器をさわったり、持ったりしたことです。理由は意外に軽くびっくりしたし、つなぎ合わせて作っていたのですごいなと思ったからです。(複数)

・土器を初めてさわって意外とざらざらしている所とかもあって、びっくりしました。さわって見たときに一番大きいつぼみたいなのがあって、重そうだなと思っていたら、意外と軽くてビックリしました。

2) 担任の先生から

・発掘された本物の須恵器に触れることができました。また、大仏の大きさを実感できました。大仏作りの資料の説明はわかりやすかったです。資料が増えると大仏が完成する様子をもっと伝わりやすくなると思いました。

3) 古代出雲歴史博物館から

・台座の部分と頭の部分に分かれて、協力して作成していました。一生懸命並べたり、工夫したりしていたことが印象に残りました。片付けも協力してもらい、スムーズに行うことができました。